

岡田宮

宝永4年(1707) 貝原益軒書

第67号

令和元年7月吉日
発行 岡田宮社務所
郵便番号 806-0063
北九州市八幡西区岡田町1番1号
電話 (093) 621-1898
FAX (093) 621-5330
ホームページ <http://www.okadagu.jp/>
Eメール okadajinja@jcom.home.ne.jp

夏越祭

無病息災除災招福

(7月29日)



七五三

七五三祭は、子供の成長にともない節目々々に神社にお参りして、いっそうの息災成長を祈る行事です。

三歳の男子女子の祝いを髪置、五歳の男子の祝いを袴着、七歳の女子の祝いを帯解きなどと称しますが、これらの名称や、その年齢は地方により、時代によって必ずしも一定しません。ともあれ、七五三は江戸時代から、広く行われた行事で岡田宮では、十月十五日を当日とし、その前後を通じてにぎやかなお参りが行われます。

なお、令和元年の七五三の年齢は、左記のとおりですので、ご家族おそろいでお参り下さい。

記

- 三歳 平成二十九年生 (かぞえ齡)
 - 五歳 平成二十八年生 (満年齢)
 - 七歳 平成二十七年生 (かぞえ齡)
 - 七歳 平成二十五年生 (かぞえ齡)
 - 七歳 平成二十四年生 (満年齢)
- ※年齢はかぞえ年でも、満年齢でもかまいません。
※毎日午前九時より午後四時半まで受付をしています。



正月巫女奉仕者募集

大神様のお側近くで巫女として仕え、結婚式やお神札やお守りをお授けする女性奉仕者を募集しています。神様に仕える重要なお務めであり、貴重な体験になるかと思えます。

ご希望の方は神社社務所
電話 (621) 一八九八
までお問い合わせ下さい。

奉仕資格 高校生以上

未婚の方

※書類審査・面接が有ります。



できれば髪の長い方希望
茶髪不可 (程度によります)

岡田宮夏越祭 ごあんない

令和元年七月二十九日(月)

午後六時~九時(雨天決行)

社頭に設けた茅の輪をくぐれば、悪疫を免れ幸福と繁栄を招来するという古式に則った夏越祭を厳修いたします。

大祓神事 午後六時より

どなたでも参加できます。

参列の方には大祓詞をさしあげます。ふるつてご参加ください。

当日ご参拜の方に

■「お札」と「茅」を授与いたします。

■魔除けとして玄關に奉斎して下さい。

■無病息災・除災招福御神酒接待

ご参拝の方に御神酒をご奉仕いたします。

■かき氷一〇〇円

地元青年会の屋台がたちます。

17:00 ちびっこ縁日

スーパースポーツくい・ヨーヨー・のり
焼き鳥・唐揚げ・ドリンク・フライドポテト

※キャンドルを作ってくれた児童にはちびっこ縁日で使える引換券を差し上げます。

17:00 奉納書道表彰式

18:30 キャンドルナイト点灯式

19:00 ステージイベント

100円券

当日この券をご持参ください

目次

夏越祭ごあんない	1	神社なぜなぜ問答 67	3
岡県紀行7	2	七五三	4
総代会研修旅行	2	巫女奉仕者募集	4



有川写真館

岡田神社 STUDIO

北九州市八幡西区岡田町1-46
TEL 093-621-2080

■営業時間 10:00~17:00
■定休日 水曜日

撮影衣装・着付・ヘアメイク無料

¥10,800~

(四切1枚・台紙付)

七五三お出かけレンタル衣装

¥0~

(お一人様)

新作ブランド衣装など多数取り揃えております

おかのあがたきこう
岡山紀行 7

甲子改元と奉幣使

甲子(かつしき)のえねとは十干十二支(じゅうかんじゅうにし)の二番目である。阪神甲子園球場の名前は、大正十三(一九二四)甲子年に竣工したことに由来する。
六十年に一度の甲子の年には帝王が変わるという説がある。応和四年(九六四)は甲子の年に当たり、康保と改元された。以後、永祿七年(五六四)を除き、元治元年(八六四)まで甲子改元がなされた。
平安時代以降の改元は、①代始、②災異、③瑞祥、④辛酉革命(しんしゅうかくめい)申子革命説による。明治以降は世元の制、すなわち天皇(てんこう)二代に二つの元号と定まり、①代始だけとなった。

さて、甲子の年には、宇佐宮・香椎宮に奉幣使(ほうへいし)が朝廷から派遣された。岡田宮は、その奉幣使の黒崎宿通行と関わりがあった。

寛保四(一七四四)甲子年は、二月二十日に延享と改元され、九月二十五日、朝廷は香椎宮へ飛鳥井左中将(あすかいさなごう) (雅重)を派遣した。これが江戸時代最初の派遣である。十月二十日、奉幣使一行が黒崎宿通行の際、御茶屋(みぢや) (本陣)の部屋(へや)の「祓」と「注連張」、東西構口の「清祓」と「注連張」を行い、勅使の安泰を祈願したが、岡田宮大宮司の波多野讃岐(なみの) (直清)であった。

その後、享和四(一八〇四)、文久四(一八六四)元治元年(八六四)、奉幣使が派遣された。文化元年は四辻右中将(よつまたひだりなごう) (公説)が奉幣使であった。四月九日、奉幣使二行(約二四〇人)は黒崎に宿泊したが、岡田宮大宮司波多

宮司様の講話、DVDを鑑賞しました。竹中宮司様を交えて直会を饗し、亀山八幡宮を出発しました。その後、どら焼きの工場見学とカマボコの販売所へ立ち寄り、そこでもお土産をたくさん買って無事神社へ帰りました。
有意義な研修旅行が出来て、関係者一同、深く感謝いたしております。亀山八幡宮竹中宮司様を始め御社の皆様には、厚くおもてなしいたいただき、心より御礼申し上げます。



野讃岐(直定)は、この時神道裁許を受けるため上京中で黒崎にいなかった。そのため、藤田の春日宮の波多野河内(徳風)が、福岡藩の「社家惣司役」である桜井大宮司浦氏の許可を得て、奉幣使のための祈禱を行った。しかし、御茶屋と両構口のある田町熊手の鎮守は岡田宮で、かつ延享の先例もあったため、今後は「掛り」の岡田宮が祈禱を行うようにと、文化二年七月、桜井大宮司が命じた。
元治元年の奉幣使梅溪(通善)が黒崎を往来した際のことは管見の限り明らかではない。ただ、当時の岡田宮大宮司の波多野安芸守(直足)は、奉幣使が香椎宮に向かう際、唐津街道の青柳宿(現古賀市)から行列に加わっている。元治の奉幣使二行は約二〇〇人、青柳に参集した筑前国の社家は三五六人であった。
江戸時代、奉幣使の通行という出来事は、神道の存在感影響力が可視化される重要な機会だったのである。



神門の「岡田社」神額

延享元年の奉幣使である飛鳥井雅重、あるいは権中納言阿野公緒(二六六―一七四二)の書と伝わる。

(北九州市立自然史歴史博物館学芸員 守友 隆)

総代会研修旅行

廣渡 孝一

平成三十年三月十五日金曜日、毎年恒例の総代研修旅行が開催されました。

八時半に神社を出発し、下関市の唐戸市場へ向かいました。

市場の開店少し前に到着して入ったのですが、人気のお寿司店の前にはすでに人だかりの状態でした。クレープボックス持参の総代さん達も新鮮な魚介類を購入されたようでした。

その後、歩いて亀山八幡宮へ向かいました。亀山八幡宮は唐戸市場のすぐ目の前にあり、道路沿いの大きな鳥居、そこからすぐ階段をあげると社殿があります。まずは正式参拝。



参拝後は竹中宮司様自ら神社の由緒や境内の末社、又石碑や置物などについて丁寧に説明して下さいました。

その後社殿の隣にある会館に移動し、

神社 なぜ 問答 (その67)

七福神 その②

大国主命と大黒天は 同じ神様なのでしょうか。

「だいきくさま」は、頭巾を被り、打出の小槌を持ち、肩に大きな袋を背負う御姿から、福德や財宝を人々に与える七福神の一神として広く信仰されてきました。これを仏教では大黒天、神道では大国主命としています。

大黒天はインドのマハーカール(摩訶迦羅)という神が起源であり、マハーは「大きい」を、カールは「黒」を意味するため、大黒天と称されるようになりました。マハーカールはヒンドゥー教の三大神の二神であるシヴァ神の化身であり、破壊の神として恐れられていましたが、破壊の後には再生・復興が巡ってくるため、豊穡をもたらす神でもありました。

また、仏教では大日如来の化身であるとき、人を食らう悪鬼である荼吉尼天(だきにてん)を降伏させた仏法の守護神として信仰されてきました。この神の御姿は忿怒(ふんぬ)の形相を持つ戦闘神として描かれており、福神としての面影はありません。

大黒天は、仏教伝来と共に中国の寺院にお

いては、食物を司る神として食厨(台所)の神となり、この大黒天を留学僧であった最澄が日本に伝え、比叡山延暦寺の守護として祀りました。その一方で、比叡山の山麓に鎮座する日吉大社も天台宗の守護神として崇められました。日吉大社の御祭神である大己貴神(おなむちのかみ)が、大国主命と同一神であるため、一説には、このころから大黒天と大国主命と習合が始まったといわれています。

この習合には、主として「大黒」と「大国」の字音の類似が起因していると思われま。しかし、お姿の上では、延暦寺に祀られている「三面六臂(ろっぴ)大黒天像」(伝・最澄作)の厳しい顔立ちからも分かるように、当時は完全な習合に至ってはいませんでした。

これが後に、大黒天と大国主命とが同一であるという信仰が広く民間に流布するにつれて、『古事記』に見られる袋を背負った大国主命の御姿にも擬せられ、忿怒の形相をもった大黒天も、庶民に親しみやすい現在のような福神の御姿となっていきました。

ですから、元来は別の神であり、神仏習合、特に福神信仰によって、大黒天の神格が変化して同一神と見られるようになったということが出来ます。